

■令和5年度執行目標（達成状況） マチオモイ部

| 部局 | 課・室 | 番号 | 執行目標項目 | 執行目標の内容 | 達成状況 | 主な成果・課題・今後の方向性等 | 項目 (単位) | 根拠計画等 | R5年度 実績値 | R5年度 目標値 |
|--------|---------|----|-----------------------------|---|------------------|---|------------------------------------|--------------------------|-------------|-------------|
| マチオモイ部 | 学研企画課 | 1 | 第2次後期総合計画及び次期総合戦略の策定 | 【第2次総合計画後期基本計画】第2次総合計画の前半5年についての検証を行い、今後後半5年間に於ける基本計画を策定する。 【（仮称）デジタル田園都市国家構想総合戦略】第2期まち・ひと・しごと創生総合戦略の改訂を1年早めて行う。国の「デジタル田園都市国家構想総合戦略」を勘案し、市の地域課題に対応し地方創生につながる計画を策定する。 | 概ね達成 | 市の全体的なまちづくりの指針となる「総合計画」及び「総合戦略」の両計画について、並行する2つの外部委員会や市議・市民等の意見を踏まえて、限られた時間の中で予定どおり策定できた。人口減少の転換期を迎え、木津川市セカンドステージのまちづくりを推進していく。 | 若い世代（10代～30代）アンケート回収率（%） | | 26.9 | 25.0 |
| マチオモイ部 | 学研企画課 | 2 | 木津川市地域公共交通計画の策定 | 地域にとって望ましい地域旅客サービスの姿を明らかにする、交通のマスタープランとなる「地域公共交通計画」を策定する。 | 概ね達成 | 地域にとって望ましい地域旅客サービスの姿を明らかにする、交通のマスタープランとなる「地域公共交通計画」を限られた時間の中で、市民アンケートや事業者ヒアリングを実施し、木津川市地域公共交通総合連携協議会で協議と承認をいただき、予定通り策定する事ができた。今後、計画の理念である「みんなで創り、支え、育もう、木津川の地域公共交通」を基に事業を進めていく。 | 若い世代（10代～30代）アンケート回収率（%） | 地域公共交通の活性化及び再生に関する法律 | 22.5 | 20.0 |
| マチオモイ部 | 学研企画課 | 3 | 情報発信力の強化 | ・市の情報や魅力をより分かりやすく伝えるために、今年度の広報紙のリニューアルと今後のホームページのリニューアルに向けて検討する。また、各関係機関等への案内を通して、有料広告の件数を増加させる。 ・地域コミュニティ活性化の推進に向けて「ピアッツァ」を導入し、若年層や子育て世代をターゲットとしたSNSの充実と、行政の一方的な情報発信ではない、住民同士の気軽な情報交換の場を構築する。 ・平成30年3月に発行した「市勢要覧」の情報の更新が必要であり、新たな木津川市の情勢を発信する目的として「木津川市市勢要覧」を発行する。 | 概ね達成 | 広報紙は11月号でリニューアルをし、読者（市民）から見やすくなったとの意見があった。有料広告は毎月広報で募集案内をおこなっている。ホームページのリニューアルについては令和6年度から業者選定、移行作業を開始し、令和7年度中に公開予定で進めている。ピアッツァは、新規登録者は一定落ち着いているが、定期的な投稿や意見交換もあり、住民同士のコミュニケーションの場となっている。市勢要覧は、新たな市の魅力や方向性を踏まえた内容で作成し、3月に発行となる。 | 地域コミュニティアプリ登録者 | | (760) | 1400 |
| マチオモイ部 | デジタル戦略室 | 1 | デジタル化による市民サービス向上 | 市民が市役所にて申請手続きを行う際に、申請書に氏名、住所等の記載が不要となる「書かない窓口」（令和4年2月1日）の対象窓口を、市民課だけでなく複数の窓口へ拡大（令和6年度）することにより、市民の利便性向上を図る。併せて、窓口DXの最終目標である「行かない窓口」について、今後の導入の可能性を検討する。 | 概ね達成 | 書かない窓口の拡大に向けて関係部局と調整を行い、令和6年度において新たに5課（国保年金課、こども未来課、社会福祉課、高齢介護課、学校教育課）に導入することとし、所要の経費を令和6年度当初予算に計上した。併せて、マイナンバーカードとLINEを使用した電子申請の導入に向けた調整を行い、令和6年夏頃に、住民票・戸籍の謄抄本、課税証明書等を取得できるようにする。 | 書かない窓口対応申請数 | 第4次木津川市行財政改革行動計画、スマート化宣言 | 41 | 41 |
| マチオモイ部 | デジタル戦略室 | 2 | 職員のデジタルリテラシー向上 | すべての職員がデジタル技術の基本知識を有し、基本的なツールを使いこなすデジタルリテラシーの向上を図るため、職員向け研修、メルマガの定期発行などを行う。 | 概ね達成 | デジタルスキル・セキュリティに係る職員研修、メルマガ発行を行った。併せて、庁内掲示板でよくある質問のデータバンク化を図った他、生成AIの利用に関するガイドラインを制定した。また、情報セキュリティ内部監査を実施した。今後、令和6年度において、総務省が令和5年3月に改訂したガイドラインに対応したセキュリティポリシーの改訂を行う。 | 実施事業数 | 第4次木津川市行財政改革行動計画、スマート化宣言 | 5 | 6 |
| マチオモイ部 | 観光商工課 | 1 | 観光入込客数の増加 | 令和5年5月に新型コロナウイルス感染症が5類感染症に移行し、観光経済の回復が見込まれる中、本市の観光入込客数についても、コロナ禍以前までに回復させ、また、それ以上に誘客できるよう観光施策を検討し観光誘客に取り組む。また、今年度開催される奈良・東京国立博物館で開催される特別展を好機とし、特別展開催中、開催後も市に足を運んでもらえるような仕掛けづくりに取り組む。 | 一部未達成・成果小 | 市民まつりでは夜店開催、木津御輿太鼓祭では御輿の宮だしなど各種イベントの取組が、コロナ禍前の形式により開催となった。観光入込客数は前年比12%増加したが、観光消費額は2%減少となった。特別展（奈良・東京）では、木津川市PRに取組んだことにより、展示された仏様がお帰りになった令和6年1月から山城古寺への客数が増加している。けいはんな万博が控える中、特別展での宣伝効果を継続するとともに関係機関と連携して誘客の取組みを進める。 | 観光入込客数（人） | | 720,993 | 1,000,000 |
| マチオモイ部 | 観光商工課 | 2 | ふるさと納税の増強 | 地域経済の活性化、市の魅力発信を目的に、ふるさと納税に係る取組を推進する。個人版ふるさと納税については、新たな返礼品の発掘や商品開発、価格戦略を行うほか、ポータルサイトへの掲載内容の見直しや検索連動型広告（RPP）の活用等を行う。企業版ふるさと納税については、令和5年度より新たに改定される地域再生計画（案）を担当課と連携し策定するほか、トップセールスを含め、企業への営業活動に取り組む。 | 概ね達成 | 個人版ふるさと納税は、新返礼品の発掘、ポータルサイト掲載内容見直し、検索連動型広告を実施し、1億円を超える寄附を受けた。企業版ふるさと納税は、トップセールスを含め延べ37企業にPR活動を実施し、15企業2,080万円（前年度は13企業1,030万円）の寄附を受けた。今後は、個人版ふるさと納税では返礼品の新規開拓やOEM商品の開発などの取組を進め、企業版ふるさと納税では近畿圏や首都圏の企業へ、市のPRを積極的に行い、さらなる寄附の増額を目指す。 | ふるさと納税による寄附金額（円） | | 120,000,000 | 104,000,000 |
| マチオモイ部 | 農政課 | 1 | 持続性のある安定した農業の確立に向けて | 農業者の高齢化や後継者不在による担い手不足が深刻な問題となってきていることから、ほ場整備事業などの基盤整備事業の実施や、ICT・ロボット技術等の先端技術を活用して超省力・高品質生産を実現するスマート農業の導入などの実現を視野に入れた「人・農地プラン（京力農場プラン）」を地域の話し合いにより作成。また、そのプランを地域計画として市が位置付けし、農業関係機関も含め持続可能な農業の確立と地域の集落機能の維持を図る取組を推進する。 | 概ね達成 | 9月25日に市、市農業委員会、府農業会議の地域計画担当者とし市農業委員、市推進委員の合同で地区連絡会議（第1回）を開催し、地域計画の策定スケジュール、役割分担等について共有を図った。11月24日に第2回目、3月25日に第3回目の地区連絡会議を開催し、会議の開催回数が4回から3回となったが、予定どおり現況地図の作成と目標地図素案作成に向けた今後の取組み計画について確認できた。 | 地域計画（京力農場プラン）策定数 | 農業経営基盤強化促進法 | | 1 |
| マチオモイ部 | 農政課 | 2 | 地産地消を通じた「おいしい」魅力発信による元気な農業を | 生産者や事業者の活力となるよう、行政、教育機関、JA、生産者、事業者といった関係者と連携・情報共有を行いながら、小売店舗内やイベントでの販売、学校給食への納入を通じて、市内の農産物・加工品の「おいしい」魅力を伝えることで、地産地消を推進する。また、生産者がより高付加価値化に向けた生産が行えるよう、市の制度設計の見直しを図るため、認定農業者等と意見交換を行う。 | 優秀に達成（困難事項・成果大等） | 認定農業者との意見交換会は、当初の予定から少し遅れて実施したが、概ね計画どおり事業実施できた。学校給食への地元農産物の納品品目数も前年度の9品目から10品目、またカバー率も3%から7%へと増加し、当初の目標は達成できた。今後は、品質管理を徹底した上で、使用量の多い品目に対しても地元野菜を納品できるよう調整を進めていきたい。 | 学校給食における地元野菜の食料利用率（農で頑張る協議会納品分）（%） | | 7 | 4 |
| マチオモイ部 | 農政課 | 3 | 加茂町当尾地区景観保全・誘客促進のための森林整備 | 豊かな森を育てる府民税交付金を活用し、加茂町当尾地区で散策道等周辺整備事業を実施。今年度は、現地調査・測量並びに全体計画を策定する計画で、次年度から伐採等の整備事業を実施する予定。 | 概ね達成 | 当初予定していた現地確認、測量、全体計画については予定どおり完了。次年度以降スムーズに事業実施できるよう予め土地所有者に個別説明を行い、事業承諾についても全て完了した。 | | | | |